

こどもの食物アレルギー緊急時対応 シミュレーション講習会

～ 児童のアナフィラキシーショック時の適切な対応を学ぶ～

8月4日(金)、宮城県立こども病院 愛子ホールにて、小・中学校、特別支援学校、児童館、保育施設に勤務されている職員向けに、食物アレルギー緊急時対応と小児の心肺蘇生法講習会を開催し、45名の方が参加されました。

第1部小児の心肺蘇生法では、今井先生・森救急救命士(仙台市消防本部)・菊地救急救命士(塩釜消防本部)・須藤看護師(仙台市立病院)・荒田先生の指導の下、実際にシミュレータを使用して胸骨圧迫と人工呼吸、AEDの使用方法について学びました。胸骨圧迫では正確な深さと速さを確認し、思っていたより体力を要するのを感じていました。また救急要請の仕方について、電話をしたと想定し行ってみることで、理解が深まったようでした。

第2部食物アレルギー緊急時対応では、宮城県立こども病院の三浦医師・佐藤医師・二瓶医師・鈴木看護師・村上看護師・四竈管理栄養士に講師を務めていただきました。

食物アレルギーとアナフィラキシーについて学んだ後に、アナフィラキシーの実際の症状や緊急時の呼吸状態にはどのような変化が起こるのか、動画を用いて確認しました。

その後3つグループに分かれ、エピペン®トレーナーを用いてエピペン®の使用方法の確認とロールプレイを実施しました。食物アレルギー症状の事例が提示され、緊急時対応マニュアルチェックシートに沿った症状の判断の仕方や、周囲との連携について体得できたようです。

参加者からは、食物アレルギー対応の重要性を再認識し、今後も繰り返し学んでいきたい。他職員にも広く周知していきたいなどと積極的な意見があり、今後につながる講習会となりました。

